

○議長（森 弘秋君） 6番 竹島貴行君。

○6番（竹島貴行君） マスクを外させていただきます。

6番竹島貴行です。

質問に入る前、通告はしておりませんが、1つお聞きします。それは、この27日に執り行われる安部元総理の国葬の儀についてです。

新聞報道で富山県内自治体の半旗の対応について報道していましたが、もちろん半旗や黙禱は強制されるものではなく、個々の自主性に任せると政府は言っています。

舟橋村はこれまで国の伝統を重んじ、国を大切にしてきた村だと思っています。元旦には新年を祝う会を挙行し、年の初めを村民の皆さんと祝い、その年の村の発展と村民の幸せを願っている自治体です。

ですから、国の発展に尽くされ、世界的にも政治成果を評価された稀代の政治家である安部元総理の死を弔い、弔意を示すため、国が決めた国葬の儀に半旗を掲げ、弔意を示すのは問題なのでしょうか。舟橋村がどう対応するのか、村長に考えをお尋ねします。

次に、これから、通告しております質問を順次させていただきます。

まず、村長が6月議会の議案提案理由説明の前に所信の一端として表明された保育所の待機児童問題、そして無医村の解消について3か月経過した今、状況に変化はないのか、また進展はあるのか、再度確認のための質問です。

なお、無医村については、先ほど同僚議員から質問がなされ、村長の答弁がありましたので、この点については割愛しますが、その中で補助金の問題がありました。

今当村には、無医村といっても、歯医者さんが2軒あります。歯医者さんは医者ではないのかという、そういう意見も出てくると思いますが、この歯医者さんには補助金が適用されたのかどうか、それを確認させていただきたいと思います。

それでは、質問を明確にするため、6月議会冒頭で村長が話されたことを復唱します。

村長は、「今年度は育児休業延長の願いをし、保護者の方には大変ご迷惑をおかけし、深くおわび申し上げます。皆様のご協力により、4年度は待機児童の発生なしで乗り越えるめどがつかしました。今後は、育児休業を再度取得していただいた方の1歳児を全て受入れできるよう、また転入で舟橋村にお越しいただいた方のお子さんが速やかに入園できるように、担当課とともに状況を注視し対応していきますので、ご理解を賜りたいと存じます」と述べられております。

この待機児童問題は解消したと言われた村長に、今でも言われたことは間違いな

とを確認したいと思います。

次に、古越村長は就任されてから、1年9か月（21か月）がたちました。そこで、村長の公約について、具体的に形として見えてきているもの、実現したものの是非をお聞きします。

村長が選挙に臨むに当たり村内に配布されましたリーフレットの写しを皆さんに参考のため添付させていただいております。これでありませぬ（実物を示す）。

その中に記載されているスローガン「誰もが安心して暮らせるまちづくり」の中で、1、安心・安全なまちづくりで、福祉・医療の充実として、幅広い世代への支援体制の確立、高齢者の外出支援。子育て支援として、ファミリーサポートによる子育て共助、定住促進と空き家対策のマッチング。防災として、災害に強いまちづくり、消防コミュニティの確立・防災士の育成。道路網整備として、緊急自動車のスムーズな通行確保。情報公開として、SNSを活用した透明性の確保といった計8項目を挙げられ、次に、未来へつなぐまちづくりに、教育環境として、みんなが集まる舟橋会館に、5G時代に対応した公共Wi-Fiの整備。公共交通の活性化として、お出かけ電車等の利用促進、高校生通学支援。健全財政として、透明性のある財政運営、村長給与の減額。農業振興として、経営基盤の整備、健康に配慮した農産品づくり。人口対策としては、緩やかな人口の増加、3世代が集う地域づくりといった計10項目を挙げられ、計18項目が村長の公約であると私は理解しており、賛同もできるものでありました。

しかし、これまでの村長の行動を見ていて、私が村長の公約だと思っていたものは単なる選挙用の見せかけ、パフォーマンスだったのかと思うように至りました。

そこで、村長が村民に配布されたリーフレットは何だったのか説明をお願いします。

これまで本議会で村長自ら口にされた公約は、副村長を置くということと無医村解消という2つです。村民に周知されていたのでしょうか。私は、以上の公約については残念ながら知り得ませんでした。

私が考える公約とは、選挙に立候補した際に、有権者へ自分をアピールし選択してもらうためリーフレット等で周知してもらい、当選した暁には、政策として実現を目指すことを約束するものだと考えています。ここに自治の根幹があるとも考えております。

そこで、村長の公約についての見解をお聞きします。あわせて、村民に配布されたリーフレットは何であったのか見解をお聞きします。

次に、6月議会でも質疑しましたリラフォートふなはしについて再度今議会で取り上

げ、担当課長にお聞きします。

まず、リラフォートふなはしを建設した経緯を復習します。

日本は人口減少時代に入り、国の衰退につながるという危機感から、次代を担う子どもを増やす国策を掲げ、その中で合計特殊出生率を上げる取組や子育て世代への優遇策を打ち出し、子育てしやすい環境整備に力を入れてきました。あわせて、国の財政逼迫を理由に、地方自治体を養うための交付金を減らしたいという思惑から、地方創生という制度を創設し、消滅都市という脅しのプロパガンダで自治体をあおり、生き残りをかけた自立競争へ導き、地方創生制度を定着させてきました。そして、自治体の地方創生に取り組み、内容に応じ交付金配分を左右するといったあめとむちの制度を使っています。

その地方創生で打ち出す政策は各自治体の裁量に任せられていますが、舟橋村は他の自治体に比べ財政に寄与する資源は見当たらず、考えられるのは人的資源しかありません。

そこで村が取り組んだ政策が、子育てにやさしい村づくりです。そして、村独自の人口ビジョンを策定し、その中でK P Iを設定、そして将来の緩やかな人口増を計画しました。そのための政策の一環がリラフォートふなはしです。入居者には子育てするためのプレミアムを組み込み、そのことが口伝えで評判となり、入居希望が一時的に多くあったと聞いております。

議会では、リラフォートふなはしの建設意義を地方創生の政策として説明を受け、承認した経緯があります。しかし、建設されて、リラフォートふなはしの政策意義を理解しない人たちが税金の無駄遣いだとか家賃が高いと言って、担当職員を困らせたことを記憶しています。

リラフォートふなはしは、地方創生関連補助金を活用し建設しましたが、補助金の性質上、家賃の設定は制約されると聞いています。そして、役所特有のことですが、担当職員が変わっていく中でうまく引継ぎがされず、政策もうやむやとなり、入居者への子育て支援プレミアムも希薄化し、本来兼ね備えた魅力が損なわれ、単なる家賃の高い村営賃貸住宅となっています。

リラフォートふなはしの政策が失われてしまえば、結果的に税金の無駄遣いに終わり、政策が失敗であったという烙印が押されることになり、建設に携わった村長を筆頭に、村の責任は大きいと考えて、危惧しています。

以上がこれまでの経緯ですが、まず今の入居状況についてお尋ねします。次に、空き家状況は6月議会でも取り上げましたが、あれから3か月が経過した現在、何か改善策は取られているのでしょうか。村の考えを村民の皆さんにも知ってもらいたいと考えます。村は村営賃貸住宅リラフォートふなはしに今後どう向き合っていくのか、見解をお聞きします。

以上、答弁をよろしく申し上げます。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 田中 勝君。

○生活環境課長（田中 勝君） 私のほうから、竹島議員の村営住宅についての質問にお答えいたします。

リラフォートふなはしにつきましては、9月1日現在で平屋のD棟に4室の空きが出ている状況でございます。これまで月イチ園むすびの開催に合わせて内覧会を開催したり、管理会社を通じて宣伝もしておりますが、成約には至っておりません。

D棟については他の棟とは異なり平屋の物件であり、中を見学された方からは、子育てするには少し手狭感があるということで、他のメゾネットタイプの部屋に空きが出たら連絡してほしいという要望を5人の方から受けております。

村としては、子育て世帯の転入の増加を目標に掲げていることから、子育てしやすい環境をPRして入居につながるよう努めてまいりたいと考えております。

ただ、このような状況が長く続く場合には、今現在行っております家賃の減額である入居者と同居し養育されている小学生以下の者1人当たり5,000円（最大1万円）を最長2年間、家賃月額から減額しており、この減額についての対象を拡大することを検討してまいりますので、議員のご理解を賜りますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 竹島議員の安倍元首相の国葬に関し、半旗を掲げるかどうかというご質問でございますが、この件については、掲げるつもりはございません。国も各自自治体の判断に任せるといふふうに言っておられますので、半旗は掲げない予定にしております。

それでは、私のほうからは、竹島議員の提案理由についてのご質問、待機児童の件については、一言で言えば、ないと。待機児童は発生しないと。発生していないということですから、ないということになると思います。

無医村については、言わなくてもいいということでした。

あと、政策参与が中心になって検証しておられる事案、パワーハラスメントと地方創生事業、これについては、答弁はよろしゅうございますか。

○6番（竹島貴行君） パワーハラスメントは、いい。

○村長（古越邦男君） はい、いいですね。

それでは、私の公約といいますか、リーフレットのすることについてお答えをさせていただきたいと思います。

安心・安全なまちづくりにつきましては、一番重要であります課題と考えております。無医村解消につきましては、ご報告しておりますとおり、現在進めているところでございます。その他の項目につきましても、高齢者の外出支援に関するアンケートの実施、防災士資格取得の補助など、また社会福祉協議会と連携して、高齢者はもとより、子どもたちと高齢者の交流の場を設けるなど、社会的弱者と言われる方への支援も考えております。また、緊急自動車の通行しづらい道路につきましても、昨年度調査を実施いたしまして、今年度実施設計を行い、来年度より順次改良工事に着手していきたいと考えているところでございます。

未来へつなぐまちづくりにつきましては、先ほど前原議員のご質問にお答えしましたので、ご理解いただきますようお願いしたいと思います。W i - F i につきましても、オレンジパークでの使用も始まっておるところでございます。公共交通の活性化につきましては、地鉄さんとも話し合いながら、村民の皆様にとりまして、よりよい活用方法を目指していきたいというふうに思っております。また、農業振興につきましても、先ほど古川議員には、お話がありましたとおり、村内の主要な農業従事者の方からいただいたアンケート結果を基に、皆様のご意見を伺いながら、よりよい方向性を見出せればと考えております。人口対策につきましては、今までのような急激な増加は、村、転入された方ともにいろいろな問題が発生しておりますので、これからはお互いにとってよりよい形での人口増を目指していきたいと考えております。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

リーフレットは何かというご質問でございますが、リーフレットには私の公約ということで掲げているものでございます。

以上でございます。

○議長（森 弘秋君） 竹島貴行君。

○6番（竹島貴行君） 答弁、ありがとうございました。

担当課長から、リラフォートの空き家の対応について答弁がありました。内覧会を開催したり、空き家がそのまま続くようであれば、家賃の減額を考えていきたいというふうにおっしゃっていました。

私は、この内覧会を開催して、そこでどういうふうな取組がされているのか、それが重要だと思います。いっとき評判がよかった頃に、空き待ち状態が生じたこともありました。それは何かといいますと、入居者にメリットがあると。何がメリットがあったかということ、やはり子育てがしやすい。そういう目的を担った住宅ですから、そういうコミュニティが醸成されようとしていた。そういう評判が広がって、家賃が高くても入りたいという人がおられた。

要は政策ですから、そこにどういう魅力をつくっていくのかということであります。一般の賃貸住宅と同等の物ではなく、やはり政策は政策として、そこに形づくっていかなければ、これは将来は失敗に終わるだろうという、そういう危惧をするわけでありませう。

それから、村長から、半旗は掲げないという、そういうご回答がありました。突然の質問をして申し訳なかったと思いますが、以前の村長であれば、半旗はされただろうなというふうに思います。

それから、村長から、待機児童は発生していないという、そういう断言をいただきました。これは非常に喜ばしいことですが、現実、私の耳には、今窓口に入所希望を出しに行くと、いや来年の4月はまだ分からないと。上市に、やられるかもしれないとか、何か不安をあおるような、そういう対応がなされていると。これは、村長が言われたこと、待機児童は舟橋には生じないということは、私は一般の人もそうだと思うんですが、舟橋で全て入所できるという、そういう印象が強いというふうに思いますし、入所を希望される方も皆、そういうふうに思って窓口に来られるんだと思います。

だけど、現実とは全然違うじゃないかという、そういう声も出てきているのは事実であります。やはりその対応を担当課長はしっかりとやっていただかないと、これは困ります。住民の不信感につながっていきますので、そこをよろしく願います。村長が言い切っておられるんだから、そのように対応してください。

それから、リーフレットの件について、村長からご答弁いただきました。

幾つか掲げた項目については、今日、同僚議員が質問されたことに関連づけて、今後

そういうふうを実現していくんだという、そういう答弁であったかと思いますが、非常に村としていいことが書かれているわけですから、ぜひとも村長の公約として実現に至ればいいなというふうに願っている次第です。

再質問ですから、入所希望について現状どうなっているのか、担当課長から答弁を求めます。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 田中 勝君。

○生活環境課長（田中 勝君） 竹島議員さんの再質問についてお答えいたします。

保育所の来年の児童の見込みについては、今年度は4月から12月までの9か月間で出生者は19名の予定です。年度末までには、25から26名の方が出生するというふうに想定しております。26にプラス4から5名の転入者を加えて30名程度の出生者とすれば、0歳児での保育を希望する人が8割と仮定しても24名になります。24という数字は、前からかねがね申しております1園当たり12名は受入れ可能と両園から了解を得ておりますので、2園で24名の受入れができますので、令和5年度の待機児童は、今の時点では発生しないと考えております。

それと、リラフォートの件につきましては、内覧会でちょっと工夫をしてくださいというご意見だと思いますので、内覧会を工夫して、少しでも空室の期間が短くなるように努めてまいります。

ただ、私どもとしては、リラフォートふなはしを満室にするのが政策ではございませんので、リラフォートふなはしから空き家等に転入していただいて、舟橋村の住人になっていただくことが本当の政策でございますので、それも踏まえて検討してまいりたいと思っております。

以上であります。